

明治三庚午年（二八七〇）

卷 廿八

八三丁

隠居良助 八一才 久左衛門 四六才

旧藩廃止

正月 元日 晴天

家内拾人無事越年 馬五疋

一、今日は元日にて平年なれは為御祝詞上下着用出仕恐悦可申上候処昨年四月此辺天領に相成大関藩へ御引渡に相成、御代官も七月上旬御引揚諸役御廃止諸士御暇に付乍残念家内打揃手寄限松立祝式取行罷有候

歳旦予見

二、今朝日の差前より昼迄に至て快晴にて大に緩やかに相成、既に朝旦晴と申程にて当年の豊凶如何と案居候処高山へ雲懸り次第に曇昼過に相成惣曇に相成、七ツ時頃より雪降り夜に入候、雪三寸積、先は半作已上の世の中請合と大慶罷在候

正月 三日 小雷

去十一月冬至より寒に相成寒七ケ目に至雨ふり候已来一日もとけ不申其寒気甚しき事近年竟無之、熊原川は豊川北向迄も氷渡り候由沢田の上

一体くわり前代未聞の事

民事局と改称

同 八日 晴天

一、民政局の事以来民事局と相唱候様 御沙汰の事

二、七戸より別紙の通申参候間御通達可申候尤宗門の儀は早々御取調御
出被成候様

正月六日

三、

新渡戸 伝

七戸藩大参事並役方

(一) 任七戸藩大参事右 宣下候事

十一月

太 政 官

馬場 軍八

(二) 任七戸藩権大参事右 宣下候事

十一月

太 政 官

谷川 林平

(三) 任七戸藩権大参事右 宣下候事

太 政 官

右之通朝廷より被仰付候段東京より申来候

金 井 静 馬

西 田 嘉十郎

(四) 七戸藩小参事 被仰付

十二月廿六日

少参事

金井 静馬

兼民事刑事事務被仰付

少参事

西田 嘉十郎

兼神祇補會計軍事督務被仰付

十二月廿六日

(五)

木下 俊蔵

石田 中

金井 節

安田 右内

君田 半治

植西 実

權少参事被仰付

權少参事

木下俊蔵

兼民部權督務被仰付

十二月廿六日

權少参事

石田中

兼公用人軍事權督務被仰付

十二月廿六日

權少参事

金井節

兼公用人刑事權督務被仰付

十二月廿六日

權少参事

安田右内

兼軍事權督務被仰付

十二月廿六日

權少参事

君田半治

兼刑事權督務被仰付

十二月廿六日

權少参事

植田実

兼會計權督務被仰付

十二月廿六日

少参事兼民事刑事督務

金井静馬

兼家令被仰付

十二月廿六日

久野繁人

渡辺一騎

家扶被仰付

十二月廿六日

前野国人

山本勝治

岩清水浪衛

山田文衛

家從被仰付

帰農後願下如何を
問合

同 十九日 晴天

七戸より此間申来候儀も有之由緒書上今日松尾紋左衛門へ頼合差出候
尤仲間の内御城下へ罷出帰農致候ても急変の御用の節は相勤申度旨願上
一人扶持被下候例も有之若罷出申度節は七戸の方願下に可相成哉と此間
七戸大参事新渡戸伝へ仲間の内にて問合候処宜旨申事の由承候間書上不
差出候も不始末の至に候間一先取調由緒書上差出候

会津藩三万石下命
大関藩取締

同 廿六日 晴天

此辺二戸郡三戸郡北郡此度会津家名御立被下候に付三万石被下置候旨
取締大関藩へ沙汰に相成去る廿四日惣触に相成候趣扱々残念至極の事に
候 其上盛岡へ公家五人程薩長の兵隊二小队旧冬罷下り候趣何等の御用
有之右様此節兵隊御差下に相成候哉、上の御心配申計りも無之王政と計
り申触側々の讒言にて様々同盟の諸候へ迷惑相懸候と見得候 如何様の
儀出来可申も難計候 会津杯も二十三万石御取上日本一の粗地吟味の上
昨年未曾有の凶作の場合被下候と見得候

二月 朔日 大雪

一、北村忠左衛門諏訪内甚蔵より左の通申来然は七戸附屬の者二月上旬引取候様三戸県より厳達に御座候尤何日出立と申儀書面を以申出候様共談合致候間此状御達次第忠左衛門迄御出被下度候

右之通申来候間右の談合に付外人数の処にては如何申出候哉と問合候所何も帰農仕候旨申出候由に付八郎も同様被仰上被下度依之石井順作も定て同様に候半同人へ相談の上七戸へ差遣願下に致地所返納可申旨談合罷歸候

三戸官所官物持去られ

二、別段忠左衛門咄合には去月廿四日夜御役所より役方四人鉄砲持參元馬場市右衛門へ御預被差置候御宝蔵へ罷越市右衛門を罵り土蔵見分致候旨申向候処元御官所御用物御預り申置候に付自分限懸御目候様無之候、其節詰合代官今渕直之丞殿より達にて北村忠左衛門、諏訪内甚蔵立合預り置候に付問合の上懸御目可申旨申向候得共聞入不申忠左衛門、甚蔵へは当県より可申達候間是非為見候様強談に付不得止披き為見候処箆寄棹持賦り候由四人の内二人市右衛門に控居翌廿五日人夫大勢召連れ御物不残持去候由、言語同断の仕業也

同 二日 晴天

七戸附屬の者当月上旬急度引取候様三戸縣より厳達に御座候迎も此節

柄引越頂戴の新田開立相及不申間重畳恐入候得共願下被成下頂戴の地所
返納仕度奉願候

右の如く返納願差送候

三戸県

同

六日 晴天

一、此辺会津領に被下候に付左の通三戸縣より沙汰相成候由左の通

会津藩陸奥国支配被
仰付

(一) 今般松平慶三郎家名被立下陸奥国北郡三戸郡二戸郡の内三万石支

配地被仰付候事

三戸県廃止江刺県へ
合併

(二) 三戸縣被廃江刺縣合併被仰付候事

(三) 村上權知事儀被免本官更に江刺縣大參事被任候事

右の條為心得相達候最追て引渡済相達候迄先は是迄の通諸事取扱候条

此段相達者也

午正月

三戸縣

御役所

新田開発願取下

同 十九日 晴天

一、先頃七戸へ新田願下の儀頼合遣候処諸始末願下取計左の如く御免被

成候

開拓地所返納御附屬願の通御免被成

右御証文上納請取申候事

二月

植西実

木下俊蔵

旧官所の大砲引渡

二、江釣子弘蔵今日罷越内談には昨年大砲三挺手前へ御預被成置候所此度上より御役方被遣、郡の御役所へ御引渡被成候間内々心附置候様元御代官今淵篤男より申付参候旨弘蔵と談合候

同 廿五日 晴天 大に暖氣に成る、洪水橋の向たるみへ水上り渡渉の事

今日盛岡赤前治部左衛門少参事此元へ御用有之罷越候に付旅宿与七郎へ久左衛門罷越面会致候処昨年彼預ケ被成置候大砲三挺此度三戸縣へ御渡被成候間今晚にも掘起し掃除致置候様尤明日遂談判候間否の儀猶可申達候間明日暮頃に猶又参候様若談合前に御役所より踏込及穿鑿候ては御自分迷惑可致と深く御心配被遊此度御引渡の為罷越候趣談合致候

二月市相場 同 廿七日

今日市相場左に

一、白米 老べ文に付 六合より六合五勺位

一、精粟 同 六合五勺より七合位

一、小麦 同 老升老合位より式合五勺迄

一、北寄 百文に付 五疋

一、鯨 巻本 貳百文位

一、鱈 巻本 巻の五百文位

旧冬より少々緩み気味と成

三月 四日 曇天

赤前權少参事にて三戸県へ談合済にて大砲三挺此度元三戸給人石井久左衛門当時帰農川守田村寅蔵へ預置候旨書上致候間右心得にて何時見分とか差出可申とか当県より達次第取計可申旨達有之候

会津藩田名部へ下着の風聞

同 廿六日 大霜

此辺福岡下り田名部迄会津へ三万石被下家名御建被下候旨御布告有之候所右為請取四月上旬彼方下り候趣風聞有之

四月十八日 晴風

暮頃に至り時雨、大風小雨

桂清水観音へ昨冬立願の儀有之為御礼今日罷越、暮前罷帰

会津藩動向

同 廿五日 晴天

一、会津藩東京へ為招呼謹慎の内三百人余当月十七日東京出帆十九日頃八戸へ上陸廿日頃三戸へ来市中家毎に五人拾人又は拾四五人何れ置式置へ老人積宿付申付大騒動の由老人分玄米四合、錢光錢八文相下候由、一賄分にも足り申間數長々右の通にては潰れに及可申候、又々追々下着に相成候得共在々へも罷越候由、夫々役方相廻り家毎に見分最中也、当村

水戸民部北海道へ

へも廿二日見分に罷越候筈の処今に参不申候 手前へも定て可被申付甚迷惑至極の至に候

二、水戸民部卿今日上下五六拾人にて御供の面々何れも歩行にて長持昇物拾棹程にて今日此元止宿松前地へ罷越候由、一昨年迄副將軍の御家柄当時御一新御国政とは乍申輕々數御出立如何様の儀出来御出か跡にて知るべし

会津藩士三戸下宿

同 廿八日 曇天

会津藩三百余人市中家々へ宿申付一日分玄米四合錢百文ならて下り不申由、市中大騒也、追々在々へも宿申付候様子なり

五月十八日 快晴

今日早乙女拾人立人拾人程にて熊林へ苗六百程獅子鼻元清五郎田へ千余九ツ過に植済

同 廿八日 晴天

大に暑氣有之

御救米給与

一、御役所より御救米差出玄米壹匁文に付壹升五勺下百米九合に御払に相成、異国米甚古米にて悪し

二、市中相对相場左に

一、地米白米 壹匁文に付 六合五勺位

一、精粟 同 六合又は六合五勺

一、大豆 同 壺升八九合

一、小麦 同 九合又は壺升位

一、味噌 百文に付 四十五匁又は五拾目位

五月廿九日 曇風

二日町平作大関藩取拂の節より二本差に相成勤仕罷在候処村々にて此度新田披立願上村方へ尋も無之被仰付候由、冲通の御百姓共百人余差支有之難相成旨右願出の所見請罷帰、斗内田子後ろ在通りも同様騒居候由駅場にて承之、左も可有事なり、御旧領の節ならは村方承知無之は被仰付間敷甚大関藩不取扱の事計り見得候、賄賂にはかり寄事右様の事間々見得候

旧官物下附

同 十二日 晴天

岩本少属当地へ罷越候に付御談申候儀有之候旨同人旅宿田中屋泉蔵方迄罷出候処此度元管処御用物盛岡表へ御持賦被成候に付御不用の御品左の通被下置候旨岩本少属談合仕候

一、弓 弍張 一、長柄 弍本

一、陣笠 三蓋 一、大小 四通

一、法服 武枚 一、昇 弍幌

一、帯 壺筋 一、脚半 弍足

一、箱類 壺ツ

右の通被下置頂戴仕候

明治三年六月

氣候不順

同 廿四日 曇天

冷氣甚し

当月十二三日頃より冷氣に相成雨水増冷水の爲稲も至て悪く相成其上かぢれ付岡作も至て替り不申、豆くひ付甚悪く相成凶作の氣味に相成甚心配の事に候

神明社宵宮

七月 八日 風雨

北風・小雨

神明に於て昼夜祈禱有之在町へ夜中明松炊き日和上の沙汰有之候

枕火

同 十二日 曇天

当月七日より毎夜枕火計り炊候事会津にてはいつも右の通の由右の爲か数日降り続の処晴上り一統大悦の事に候

如旧例雀古館正一位稻荷大明神祭礼修行

古城へ稻荷社建立

同 十九日 晴天
同 廿四日 晴天

一、久左衛門招請有之爲に甚蔵宅へ罷成居処斗南重役倉沢兵衛殿より内達には当古城の儀御旧主の居城跡にて御居間通と見得稻荷社等見得候処余り大破と見請候、仍之当君にて再建尊敬被成度思召の処御承知の通の疲弊に付不及其儀候なれば当処には無御扱御暇被下置候人数沢山有之

稻荷社寄進

同 廿五日 晴天

趣何とか御先代の居城の儀にも候間稻荷宮再建敬候儀如何可有之と被仰に付御古城御任被下候ハハ帰農商の者共相談出銅仕右にても不足の節は杉四五本も頂戴相拂不足の補に仕度と重役へ申出候至極宜敷旨挨拶に付夫々手寄を以仲間へ相談出銅向申出候様内許致、久左衛門斗内通住居の人数へ相談の上申出候積にて罷帰候

昨日の儀に付斗内通住居の元仲間へ馳廻左の通寄進申出の分今夕諏訪内迄遣候

一、沓両 村井良作

一、貳分 飯巻久右衛門

一、貳分 一渡熊之丞

一、沓分 栗谷川藤右衛門

一、藤右衛門
親隠居 栗谷川龍左衛門

二、会藩鈴木英八家族共四人今日手前へ引移座敷一坪用立差置候

八月 四日 小雨

朝大時雨、少々冷々、北風と成る、後暖氣明後日は二十日に候処田出揃、大概実り候

会藩鈴木英八石井家
借宅

同 十八日 曇天

所々稗苺始る、早蕎麦・早粟も苺至て豊作と相成り、豆作共に宜敷見

得候

九月十一日 快晴

今朝初霜降り大に冷る

昨今日神明祭礼神輿渡有之附祭無之、至て不賑

七五郎戦死三回忌

同 十七日 晴天

行う

二男貝守七五郎一昨年羽州猿間に於て戦死三回忌、今日下町に於て執

同 十九日

北風大烈風雨、水六尺程出る

同 廿一日 晴天

昼頃雨又晴る

旧会津藩主来五

松平慶三郎殿此元泊にて五戸へ御下り被成候 此方は会津公廿三万石

御取上家名断絶に相成候所昨年妾服の子出生に付三万石被下置家名御立
被下候御方、上下四拾人程にて今日御下りなり

同 廿八日 晴天

今日相場荒増左に

一、古白米 壺_メ文に付 八合_ノ八合五勺位

一、新白米 同 九升位

一、精 粟 同 壺斗位

一、大豆 同 式斗七合_ノ三升位

一、小 豆 八合_ノ九合位

唐臼場建る

十月廿五日 晴天

唐臼場式間半に七尺庇新規先達て拵置候所去る十二日より臼三ツ据仕切しかし戸迄出来備倉へ仕付、井竈一組今日迄新規出来候

旧会津藩士下る

十一月八日 冷雨

会津藩先月廿五六日頃より日々二百五拾人宛陸地下向 べ八千人 陸路五千人程引越の由にて日々通行在々へ下宿割に相成、老若男女何れも歩行にて日数十八九日の積にて罷下候由、衣服は薄く荷物五貫目に限候由、扨々痛入候事に候、其上年内中扶持被下候様無之由、一日一人玄米三合積被下候由 大に困り可申候

十一月末物価高騰

同 廿八日 晴天

市場相場荒増記す

一、白米 壱匁文に付 壱升壱合より一合五勺迄

一、精粟 同 壱升五勺位

一、小豆 同 貳升位

一、大豆 同 三升七八合位

一、塩引 壱本 壱分貳朱より貳分位

一、鮭 同 壱分三朱位

一、鱈 同 壱匁五百文余

一、北寄貝 百文に付 六つ七つ位

一、玉子 壺ッ 五拾文

一、清酒 壺升 壺ノ六百分

一、濁酒 同 八百文

一、塩 壺駄 壺兩三分位

外右に付諸色高直可申様無之、十月初頃には大豆五升位、粟壺升五合、白米壺升三合余にも相成候処次第に高直に相成、会藩此度壺万人余到着、一日老人三合扶持にて新事も不被下一統足扶持粟豆等買取候に付次第に高く相成候、此末如何相成可申哉無心元事に候

十二月十三日 晴天 今日藍七拾五ノ目程ねせる

煤拂

同 廿六日 曇天 大に緩む 煤取候事

同 廿九日 晴天 寒じる 今日は年取也

明治四 辛未年 (一八七二)

卷 二九

六一丁

隠居良助 八二才 久左衛門 四七才

正月元日 朝晴

五ツ時雪ふる

家内拾人無事越年 馬三疋・七才疋定

年頭予見

一、今朝日の出る頃東の方至て快晴、西の方大に雲右次第に曇り五ツ時頃に至大時雪に成又晴寒氣甚し、先可なりの豊年かと存罷在候

一、平年ならば父子為恐悦上下着用出仕可仕処一昨年重臣檜山佐渡大義を誤り候一条に付上の不首尾在々諸士御暇、此節盛岡表郡縣御願立、命にて江戸在住、盛岡縣と相成、大参事東次郎・野田玉造等の取計と相成残念此事に候、此辺は会津支配処に相成、斗南藩と相称、藩士貳万余、昨年引移在町家別借宅罷在、手寄へも鈴木英八家内四人座敷一坪貸屋妙なる年始也

斗南藩領となる

木ノ実搗き早敢取る

同

八日 晴天

今日より木ノ実はたきに取付候、早々左惣治・寅之丈白立切にてはたき八郎震で動し候て一日貳拾疋俵宛なり

無尽金受取、長屋取
建る

同 十二日 晴天

一、去七日妙光寺無尽拾四兩貳分掬取候に付今日同心丁塚ノ根長屋々數
立始末認賈大庄屋長三郎・組頭庄藏加印取来候

会津藩三万石被仰付

一人に付玄米三合

一、市中へ罷出候処松平慶三郎殿二戸郡・三戸郡・北郡にて三万石支配所
御預け、昨年罷下り五戸に被成御座候処昨年十一月頃迄惣人数貳万人余
下着に相成、在々町々入小沢迄下宿被申付手前へも四人参居候程の儀に
て其迷惑可申様無之候、然る処聊の御收納にて数万人の御人数一日壹人
玄米三合宛被下置候ても御米続不申昨冬より下々へ御達には昨午年より
金目定の高より上納の御役錢は御返被成候間御米上納可致旨御達候由以
の外の事に候 七百年来旧領主より御役高は別段其他金目にて仕来候所
只今に至御人数多く連来、取続不申扨とて上納相濟候分相戻、御米納候
様杯是は扨当年より年々上納杯逆も相及申間數能々小間居一統へ相心得
させ願候ハ、可然、此村には一向触も無之、一人も心得候者無之由、他
村にては皆々打寄相談中の由、其上人頭一人より日々沓文宛溜備致、惣
高より七步通年々上納錢被仰付候由以の外の事計出来下々難儀可申様無
之候

一月廿二日 晴天

大に寒じる、枯木に花咲き極寒の如し

田子・鹿角通り百姓
騒動

金目高不滿につき百
姓立騒ぐ

米上納殿達に付衆人
騒立る

廿三夜

同 廿三日 曇天

一、一関村肝入勘十郎へ田子通百姓共數百人押寄騒動有之役立相話候由
一、鹿角にも騒動の由

一、旧冬七戸にて金目高へ米上納の儀申付候処頓て百姓共大勢押寄大騒
有之由の処、大參事谷川林平東京へ被召寄謹慎の由

南部雄丸殿土沢へ御国替に相成候筈の旨平一此間箱館へ罷越候節咄合
罷通之由

一、此元にては松平慶三郡殿金目高より米上納の儀旧冬殿敷申付候由、
迎も相及兼候旨一先願出を以重立の者共罷出相願候由、尔今有無沙汰無
之由、既に騒立も可相出勢に見得候、其上人頭一人より一日老人宛溜錢
上納の目論見も有之由旁不改の事而已有之氣請不宜候、其上所々にて材
木等切置候処金錢等取上其利俗甚敷言語に難演事に候

大にゆるむ

今日昼の内大にゆるみ雨氣に成候所夜に相成、追々少し冷ひ道も氷り
曇り、四ツ過九ツ時頃より晴夜に相成、八ツ時頃大々として廿三夜御出
也、直に川きりにて為隠候、至て宜敷晴夜也、旧冬二月閏有之、平年よ
り時節早き故至て登り御出也、風も無之至て宜敷夜也

立木調査書上

同 廿六日 晴天

一、今日藍玉正味一貫三百目玉二十九搗候、一玉三貫五六百文致候由
一、村の清左衛門申出候は昨日御呼出にて御役所へ罷出候処杉松雜木共
一尺五寸廻已上何百本有之候と申儀書上可申旨御達の由尤手前にも杉五
百本御取分植立有之候故名代善治を以相蒙候間右の趣可申上旨庄屋芳郎
より被申付参候旨申出候事尤二月廿日迄に書上候様達の旨共申出有之、
其節に承り候上取計可申候

二月十四日 晴天

朝大に冷る

氣候不順

当春已来寒暖不定或は冷或は暖に成、雪雨或は風、路も彼岸頃より乾
候て又ぬかり今以かわき兼最早明後日は清明の時節に候処水も冷候為至
て苗も出難き年也、豊凶如何相成可申哉関村山口村の辺尔今軒下に雪三
四尺も有之

田打

三月 朔日 曇天

大に暖氣に成

今日田打九人相願手人式人合拾耆人内四人熊ノ林七人獅子鼻荒木共
打、内二枚水有之といふ残し

相場表

同 八日 小雨

今日の相場表荒増左に

一、白米 耆ノ文に付 九合位

一、精粟 同 九合位

一、豆 同 三升位

一、小麦 同 壹斗位

一、蕎麦 同 貳升位

大霜被害大なり 同 廿四日 大霜 柿・胡桃・漆ノ目・大根・蕪・草木不残焼る、前代未聞の大霜、田へ

氷張る

四月 朔日 晴天 庚申手前当番也、夜に入り雨と成る

家内人数上書 同 十四日 風 家門書上呈出の控左の通

石井久左衛門帰農川守田村

久左衛門事 石 井 寅 蔵 四十七才

一、家 壹軒 表口拾間貳尺 裏口五間

一、土蔵 壹ヶ処 表口三間半 裏行貳間半

一、小屋 壹ヶ処 表口四間 裏行貳間半

一、馬 三疋

一、植立杉 五百本 但二分八步御取分

同人 妻

嫡子八郎事 久太郎 二十七才

同 妻

嫡孫 藤一郎 四才

親隠居 良助 八十一才

娘 二人

姉 一人

合九人 内男四人 女五人

ノ

大風作物を傷付く

五月 五日 晴風

此間二三日の大風にて麦大に被損、稗作葉枯れ粟作転び至て損害大、

田水不足大困り也

法要執行

同 廿七日 曇風

小雨時々、暑氣有之

今日貞室智孝大姉十三回忌、明日の処田屋法事取計法泉寺に石井六郎、志村才右衛門・石井時治相招く

六月 三日 晴・曇 今日土用なり

会津藩士窮乏

正智院下宿神田小次郎と申者日々草取に来、頼談には金田一下宿原三

六と申仁二十三才とやら右手不具に候得共元農業致候者に付若御召仕被下候ハ、一兩日も御使被下候上一ヶ月も二ヶ月も御召使被下度願に付今日草取歟使等見候上卅日にて七貫五百文に完め過不足は右割合にて盆前約定致候

同 七日 晴天

雷鳴有

斗内村彦市下宿の会津藩佐藤二三、明八日より盆前一日三百文宛にて林泉寺請合にて今日約束致候

同 廿三日 雨天

先月上旬より雨一切降不申向川原手作畠迄も都合式拾五六枚旱損、豆・稗・粟枯れ皆無にも可相成哉と心配の処先此雨にては生残候分作合は替り申間敷候得共少々は実も入可申、黒土の分は至て宜敷見得候

雑穀下直

七月 朔日 曇天

昨夜大雨、雷鳴でひひ水三尺程も出る

一、当年五月より六月迄大暑晴天続にて田作早敢取最早水口計残り出揃に相成、多分実入大豊作と見得申候、右に付去廿八日俄に相場下直に相成

一、白米 壹匁文に付 壹升七八合

一、精粟 同 壹升五合位

一、小麦 同 壹升八九合（式斗式合迄）

一、豆 同 四升位

一、両替 壹両 十式貫文位也

虫追祭 同 十五日 晴天

所にて粟へ虫付候趣にて虫祭有之、当村にても神社奉納旗十二幘立、獅子神樂揃子にて虫祭致

同 十六日

熊野祭礼有之、群集夥し

八月 六日 曇天

昼に至り雨天、彼岸なり

元領検地名札立置く

同心丁茶屋梅内村の内同心丁辺組頭庄蔵より今晚参呉候様申来、八郎差遣候所元藤牧領、元川村領、元一戸領来る十日御検見に付持高・場所附地主名面枉札へ相記建置場所へ相詰居候様談合有之

斗南縣

一、此辺斗南の事、斗南縣と被仰出候事

祭礼群集賑し

九月十一日 快晴

今日も神明祭礼、貴賤群集賑し、芝居有之、見世物・からくり・居合・抜・小見世物賑しく市中群集近年の盛り也、夜宮も茶屋沢山懸り夜明迄迄盛り候

内職蠟燭売捌上々

同 十二日 快晴

神明今日も芝居有之大入なり、内職の蠟燭百文代余為懸置候処今晚計に売切候、大当り也

在府小路火災

同 廿二日 雨天

今夜九ツ時過在府小路に出火、風も無之昼雨天の爲濕り宜敷故壱軒にて相済む

同 廿六日 雨天

夜明より大雨洪水、酒屋五兵衛、肝入節郎春木流失、芳郎より獅子鼻辺へ春木爲揚呉候様願出有之

戸籍整備調査

同 晦日 曇天

戸籍書上の儀に付戸長節郎名代重次郎当村へ罷越書出候事

一、氏神 熊野神社

一、六日町済家宗 法泉寺

右の通差出候

十月 三日 雨天

戸籍書上の儀に付庄屋芳郎より頼合に付久左衛門晦日より今日迄取調

呉候事

斗南藩士下宿の件
請願

同 四日 曇天

斗南藩昨年より下宿被仰付此節秋収の時節殊に長々下宿に付間狭にて甚迷惑に付下宿御免被成下度旨所々より願出候趣に付当村我等始清左衛門・国松・万助始として久保・豊川・北向・玉木・檜館下宿の人数今日三拾人余芳郎へ願出候所委細致承知候、脇々振合に基き願書取調各印形は私にて取繕差出可申旨の挨拶候事

曲馬開催

同 八日 晴天

一、熊野神社に於て曲馬有之

一、今日白米壹文に付壹升八合位、精粟 同 壹升八合位の由

同 廿八日 晴天 一、今日七ツ時地震

一、今日の市相場左の通り

一、白米 壹文に付 式升或は一升九合

一、精粟 同 壹升九合又は八合位

一、大豆 同 五升より四升八合位

十一月朔日 曇・雪 昨夜雪降積事五寸余

同 二日 晴天 庄屋松尾芳郎より左の通申来る

田 中 玄 文

下宿免除請願への返書

配下鈴木英八寄宿罷在候境沢石井久左衛門と申者八十余の病老人有之必至と差支候に付余方へ移呉候様申聞尤其旨其筋へ久左衛門より申出候趣依之当方に明下宿も無之候に付五戸在豊間内寄宿一類石山弥右衛門方へ同居致度旨英八家族申出候所外持前には下宿替不相成旨被仰聞有之候得共五戸在へ下宿替致候とか又は久左衛門へ下宿替相成候迄勘弁罷在候様其筋より被申聞に相成候とか何連急々御差図被下度儀と申達候事

十月廿四日

五戸同懸

三戸勸農懸

御中

同 七日 曇天 少雨、冷る

各戸名札配付

昨六日庄屋松尾芳郎より此度銘々へ札御下被成候間一人百拾五文宛取立
差出可申旨申来、追て御達向可有之旨申来る

三戸郡二小区境沢村伍長

十番 家持
農

石井 久左衛門

家族九人内男四人
女五人

七番 境 清五郎

八番 境 千太

九番 青木 太惣治

十一番 境 丑松

右五人組合の事

十二月四日 大嵐

斗南藩鈴木英八家内四人 英八並同人親
隠居母妹の四人 去年七月より手寄へ下宿致居候

処老父良助病床に付病間無之且数人の家内間狭にて甚差支罷在候付下宿
替被仰付被下度旨去月願出を以願上置候処漸々今日赤石村助左と申者へ
引移に相成候事、馬三疋人二人にて送遣、味噌等呉好物・酒・蕎麦杯見
立致遣候

同 十八日 晴天

市相場左に

一、白米 壹匁文に付 貳升二・三合

一、粟 同 右同

一、豆 同 五升

一、蕎麦 同 六升位

右の如く大下直にて金銭至て不融通にて取引一切無之

同 晦日 曇天

極寒

一、家内安全越年也、孫藤一郎母共田中館家にて越年也

一、押詰に至り金銭不融通なり

一、光銭 一文 十二文

金銭不融通に付甚不
景気

一、文久錢 一文 十六文

一、波錢 一文 貳拾四文

一、銀札 一両 十二文

光にて百十二匁五百文も有之但光一匁文にて一匁百文に役立に差出候向も有之、甚不同の取引也、正金一切無之前代未聞、其上当年金目高より御年貢米上納被申付未御請に至不申居候事、下々難儀可申様無之

一、同心丁熊ノ林へ窮貧院建斗南藩貧人夥數入込み産業致居其上青森縣に相成り大に一変致し珍事計有之候

明治五 壬申年 (一八七二)

卷 三〇

五四丁

(十二月三日新曆明治六年正月元旦)

隠居良助 八三才 久左衛門 四八才

正月 元旦 晴

家族九人召使二人計十一人馬三疋外に一疋別家召使倉へ預置

朝旦晴朝四方に雲有高山隠れ五ツ時過小雪時降り少々ゆるやかに成晴
快と申には無之夜六ツ時雷鳴稲光り北風雪降大烈風言語に難演、豊年と
見得候

同 三日 雪

春祈禱致す、内職に付職人善太郎永蔵太惣へ馳走致す

同 六日

晴大に寒じる枯木に花咲く 今日より木実はたき致し三人にて貳拾四

俵宛為掲候事

同 十二日

晴寒じる昼とける今日にて木実はたき済粉六斗入四拾貳俵程有之

はたき
果実の实を殻からと
り出し粉に搗くこと
正月相場

相庭壺貫文に付、白米壺升八合より九合位迄、餅白米壺升六七合位、

餅粟貳升三四合余も致候由

机賑う

同 十六日

曇天少々冷る市中へ杓大黒苗取貳拾組程出大に賑し

同 十七日

晴天時々雨白山御神酒上有之清酒壺升遣す

廿三夜

同 廿三日

晴寒じる今夜の廿三夜至て静かなる夜にて風も無之晴夜にて鳥前光
大々として南をだき宜敷御出なり、昨年は杉と杉の中程より御出なり、
当年は余程下り御出

年貢上納難渋

同 廿八日

晴天寒じる当所青森県に相成旧冬より斗南藩勤中より被申付候御年貢
上納彼は難渋御請不申上候に付、田子在より五六人金田一辺より式人と
やら入牢被申付候為四分通上納始り居候趣、我等へは何とも不申参候得
共、右の為米今日出不足に付、老貢文に付、白米を老升七合位迄致候由、
精粟一升八合位、大豆四升五合位

同 廿九日 雪曇

昨夜雨降直に雪になる大にゆるみ道悪し親隠居良助当年八十三才錢枕
也

二月十五日

小雨曇昨夜雪四寸程降る

元飯豊領組頭より昨年分御年貢割合申来、五斗八合也来る十九日迄上
納可致

昨年迄は錢定の処会藩来り収納不足に付色々企致右様米上納始り下々
迷惑可申様無之

錢相場

同 十八日 曇天

道大に損ず 光錢拾貳文の処拾文、波四文錢廿四文の処貳拾文、文錢

拾六文の処拾五文、百文錢八拾文、両替を兩拾貫文に通用御沙汰に付町方にて取替大混雜致候由

別家倉女房家出事件

同 廿日 曇天

別家倉女房きよ去十八日夜風と相見得不申尋人廻し候所神明に隠居候旨、且那樣に連戻被下度との事、久左衛門參候所落着せず、きよ姉とら参り連戻来諭被下度との事

同 廿一日 晴天

倉女房きよ不審説諭四ヶ條

一、其方儀兩親願出幼少より養育別家の恩忘却不屈の事

一、別家以来衣服飲食迄身分不相応の事

一、夫をないがしろに致し昼夜嫌いなく駆歩き我儘増長此度の家出言語

道断

一、神明に三日忍居る候儀本心とは思はれず不審

きよ逃隠れせぬ様腰縄付、久左衛門宅一室に慎み申付

廿三日きよに一札誓詞を書かへ相許し候事

洪水

二月 朔日 北風 冷し

昨日より出水当村仮橋釣木落ち人馬不通、五日仮橋普請差積め高式百

三拾七貫九百五拾文普請取付

紀元節

同 十一日 曇天

今日は神武帝の御忌日の趣にて天下一同休日也、神明に芝居有之札錢

なしに為見被成候事大入なり、十二日同断

同 十六日 雨天

北風冷氣ニ成 神明例年の通御祈禱有之御初尾老貫文持参久左衛門参

詣

庄屋共ざん切になる

同 十七日 曇天

庄屋共支庁に於てざん切に被致候由、異人風にざん切の者多し其上無刀に相成候事

同 廿三日 曇

召使末吉欠落致候事

四月 朔日 大風

当村又助林の杉式本、栗三本用水用に切候に付、白山社へ錢拾貫文奉納仕度旨清左衛門立合にて申に付、鳥居控柱四本元木残し可然旨久左衛

門挨拶

桂清水参詣

同 十七日 晴天

桂清水参詣の序福岡一戸へ相廻出る町へ久左衛門止宿 十八日晚帰宅

三戸青森県支庁となる

五月 六日

霞北風に成冷氣に成 当所三戸通当年より青森縣支庁と相成、御役所

へ菊の紋幕打役方出張、江刺縣関輕福岡通も此元支配に相成、八戸縣不殘此元支配にて大に繁華に相成申候、然に下々追々窮迫に相成町々小商人共渡世も以前よりは暮し悪く所々かまと返し有之、物の値段高きには一統困り候時節也

一、越後新潟辺に騒動有之、人数六万人程一揆起り諸縣潰し騒動有之由

穀物相場

聞得候

一、此節の穀相場左の通

老實文に付、十二文光錢にて壹升八合位、鑢錢にて壹升六合位、精粟、小麦同断、大豆光錢にて四升五合位、酒壹升七百分文位、ろうそく百文に付八匁位上六匁位

光錢鑢錢通用相場

同 十二日 雨天

今日より光錢一文拾文、鑢錢百五拾文にて百文通用に成

同 十八日 雨天

小雨冷氣に成以外の外也、昨年は此節大暑照続諸作至て宜敷稻杯も田植

済不申内に先の植候分青く相成一日限に変わり岡作も同様の処、当年は春中より氣候不宜仕付後れに相成、稻も先植の分変りなく粟等も延兼、木瓜きん瓜素立兼、暑氣薄く綿入を着候程の冷氣也豊作の程心配の事候

六月 三日 曇

先月廿六日より晦日迄朝日の赤き事申計なし、大に暑氣に成一入大悦、

四五日以前より家の内小蠅の群がる事夥し今より蠅出候は大暑に至可申筈、此節卵の花最中、大麦未だ実入熟し不申、粟俣作至て不宜、如何相成可申哉

持馬調べ

同 四日 曇天

持馬調べ、四疋、尺三寸青駄十九、尺三寸青駄十二、尺四寸鹿毛駄六、青十九の子青駄当才

同 六日 曇

今日諸方より拾六人相頼、手人五人共、廿壹人にて田草取、夜大雨一尺出水

同 七日 曇

今日庚申手前の番也

六月相場

同 十六日

晴大暑今日手前植立杉盜切候者捕押候処元斗南藩の者にて式尺式寸廻位の五本鋸にて切取候旨白状涙を流し母並家族養ひの為面目次第無之内済用捨被下度願にて不便に存じ一札取此度計用捨致候事

蔵屋根普請

七月十六日 快晴

大暑続き甚し、早稲出穂出揃、晚稲盛に穂出豊作也

同 十九日 雨天

十四日より今日迄生蠟、仕廻なり御神酒上致す

同 廿三日 曇雨

今日より蔵の屋根普請入用材木植立杉剪取候事、夜に入大雨篠突が如し大水

八月 朔日 快晴

今日村の者共頼蔵の屋根取毀し上壁昇桁迄垂木迄出来左官一工にて済大働也二日蔵の屋根出来、三日庇の屋根出来上出来なり、大工拾三人懸る

同 六日 曇

召使角太郎縞綿入一枚盜取欠落候事

久左衛門盛岡旅行

同 十一日 晴

久左衛門通し馬にて今日七ツ半時盛岡へ罷越、中山の孫助へ一宿

同 十二日 晴

盛岡着大沢川原中嶋安太郎へ止宿

同 十四日 風

盛岡祭礼見物出し物十三出る何れも三百両の物入の由群集夥し地芝居並釜石女芝居有之大角力も近々参趣

同 廿日 晴

今日盛岡出立、中山一宿、廿一日昼八ツ半時着

八月相場

同 廿八日 曇晴

相場、老貫文に付、白米貳升六七合位精粟貳升八九合、大豆六升位、蕎麦六升五合位、小麦三升位、光錢老文拾文通用、鋳百文に百五拾文代也、両替老兩拾貫文

同 廿九日 曇熱

雨に成 蕎麦刈最中也稲作大概水口立昨年よりは余程劣目也粟作宜し豆蕎麦可也胡麻上作也

検見実施

九月 六日

晴朝大霜今日里正松尾芳郎より報知有検見役来り場所へ相詰、獅子鼻元手前知行所土手際昨年刈取候場所より一坪刈取粒にして一升三合二勺有之趣

神明祭礼

同 十日 晴天

神明祭礼有之、十一日同断郡集夥し津輕芝居有之 十二日今日も芝居大入り

同 十六日

曇夜雨松尾官平炊料木百間程獅子鼻へ揚申度留切上げさせ被下ば地代料春木三間差上可申旨先達申入、差支不相成様留可申と挨拶今日春木来此方にて揚候事

釜石女芝居興行

同 十七日 雨天

大雨洪水夜に入三尺余出る

昨日より三日釜石女芝居来、衣服宜し芸は格別に無之

同 廿九日 大風

今日稗打仕廻三拾五俵程也

仮橋落修繕

十月 七日

晴雨夜大風 当村の仮橋落る

十一月朔日 雨

当村の仮橋また落る人馬不適用、建直し料五百三拾貫被仰付大工棟梁橘甚兵衛談合に来る、同七日右仮橋出来、八日見分済

白山社鳥居葺替

同 十七日 風冷

白山社鳥居屋根替控柱台石共今日出来、右酒白米三斗差出、惣入方は備錢より遣払蛇沼上久保人数迄来御神酒上致諸味四斗程吞候事

相場下直

同 十八日 晴

相場下直、尅貫文に付、白米三升六七合、精粟同断、大豆八升位、蕎麦八升より尅斗位、清酒尅升六百文高値也

同 廿四日 晴冷

枯木に花咲く

親良助病死八十三才也

親隠居良助儀行年八十三才今夕戌の刻致病死候事 各所へ飛脚差立

同 廿六日 雨天

五ツ頃より晴曇風

亡父大隻良徳居士本葬今日八ツ時執行法泉寺引導委細悔帳有之

○明治六年癸酉(十二月三日)

陽曆実施
一月一日となる

一月 一日 曇

今日は明治五年十二月三日の処陽曆一月一日に相改候事

大雪一尺降る

同月 五日 曇

昨夜北風大雪降積事二尺余吹懸有之不通用に成漸四ツ時頃より通路有之

一月相場

同 六日 曇

深雪にて通路難渋、今日は旧曆十二月八日に当り市日也諸色少高値に相成

壹貫文に付、白米三升壹合位、精粟三升貳合、餅白米貳升三四合位、大豆六升五合位

同 八日 曇

大雪の為米穀不足の為今日壹貫文に付白米三升壹合位、精粟同断、餅白米貳升貳三合、大豆六升位に相成

大雪四尺程積る

同 十五日

昨夜大雪一尺五寸余、今日二尺ふり積先雪と合四尺程也、今暮六つ時前地震夜四ツ時頃地震

同 十六日 晴

旧曆十八日に付市日也

旧曆歳末相場

同 廿六日

風大に寒じる小雪 今日旧曆十二月廿八日に付市相場左に、壹貫文に付、白米三升壹合位、精粟三升貳三合位、塩引大壹本四貫七八百文、

中壹歩位

廿九日餅搗く

同 廿七日

曇寒
じる

同 廿八日

今日は大隻良徳居士三十五日也、旧曆廿九日に付餅搗き候事
曇小雪大に寒じる 今日旧曆大晦日に付内祝致し家内安全越年

久左衛門 四九才 八郎 二九才

旧曆正月元旦

一月廿九日 曇

寒氣、旧曆正月元旦に当る 家内九人無事越年馬三疋 朝より一日曇り
朝の内相応の寒氣に候処昼過より少々ゆるみ候得共快晴に至兼先当年は
可也の世の中と考えられ申候

同三十一日 曇

寒氣甚し、今日春祈禱、内職の蠟燭初、祝ひ事致吸物二・酒六升肴色々
終日祝候事

二月 五日 曇

今日又助召連れ中堤の彦七より天満の天満宮社内に有之櫓元口六尺廻
程大黒柱壱本壱両貳歩六百文代助左衛門取持を以相求候事、斗内村稻荷
神社に有之杉元口七尺廻壱本栗谷川福左衛門へ相求頼置候事

同 十二日 曇

大に寒じる 今日旧曆正月十五日に当候に付手前限家内一同無事祝
致候事

旧正十六日松の賑ひ

同 十三日 小雪
晴

今日は旧曆正月十六日に当大齋日也 市中杵沢山出賑ひ候由手前へも
三組来る

同 十四日 晴

三月十九日 曇

今日は旧暦正月十七日に当り白山御神酒有之清酒壹本遣す
冷る、今日中堤の彦七より無心大黒柱元剪の為又助・菊・頼手人三人
共罷越、櫻長さ二丈五寸幅一尺式寸五分角出来、人夫十一人相頼み手
人共十六人にて川端迄引下置候事、清酒五升濁酒五升為吞首尾宜敷一統
歎び戻候事 諸入用拾へ文程

同 廿二日 風

昨廿一日の雨にて洪水三尺余出水也、中嶋富次来り止宿、此元検地に
付参る

同 廿五日 嵐

度々曇冷る 川守田左仲太二男貞吉年十五才に罷成召連今夕父子参り
候

雇男寅之丞行方不明
警察に訴う

四月 一日 晴

捕亡附属古館駒蔵へ左の通申出候事

袖控 元泉山作之丞弟 寅之丞右之者絵金奉公にて相雇召仕居申

候、当年分給金昨年通一ケ年八拾貫文の内昨年前金五拾貫文旧臘貸遣置
候所一昨二十九日盛岡より親類川守田左仲太参り本人罷帰るに付、寅之
丞を金田一まで見送りに附遣度思ひ、寅之丞へ錢一貫文渡す。然るに寅
之丞一寸廿八日町迄所用ありと出で行き其の俸帰らず、左仲太は出立致
候、寅之丞不審故心当り吟味の所女老召連何れか行くを梨子売の子供

見知り居り、実兄作之丞は一円心得不申と云う情況に付本人行衛に付訴
出申候
石井久左衛門

同 十日右に付重ねて捕亡へ願出る

同 廿六日 風
当村松之助家普請に付先達て大麦片馬白米壺斗今日大工見廻として清

酒式升五重一組、蕎麦切持送致候事

同 廿七日 風晴
今日原村覚之丞より調候丑一本末木一本中堤にて調候、大黒柱一本、

斗内村勘兵衛喜助鍛冶へ川流し方壺両式歩濁酒壺斗に相頼候に付留々へ
親方として久左衛門早朝より罷越斗内辺迄丑並末木五六人にて来る、
留々左の通

雀ヶ平用水、衣更、小山用水、同所梁留、向山、舞手、下田子、岩堰、

神明川原、毒沢・中堤・沢田・かふくり、やり違、豊川用水留

十五所

右廿八日橋の上迄着清酒五升余分に遣し此代惣〆五貫文余

御検地始り此節泉山村改居候に係梅内村持地へ所々札立候事

五月 二日 曇
同 六日 晴天
今日御役所にての達

北村金左衛門 小笠原十次郎 石井久左衛門

右者川守田村地券下調申付候

今日昼より豊川村境、境沢大清水より地券調方相始、十二役へ出わらんじ平中程迄相改候事、但同役三人立合にて相改、別帳有之

同 七日 風
前同断境沢村中並わらんじ平残り夫より東比良野月中尻足沢かくらんじ迄不残相改候事

同 八日 晴
今日は庚申又助番也 大に暖氣に相成

同 九日 曇
夜に入雨、今日地券下調に付八百ヶ平より聖上寺道迄相改候事

同 十七日 晴
今日迄久慈町上通町兩裏迄改済

同 十八日 晴
去十四日下田子の善八子房吉と申者奉公に相抱、今日人元並請人同道罷越右抱置候事、当酉五月十四日より来戌五月十四日迄丸一ヶ年拾三兩の定にて前金八兩渡

同 廿二日 晴
地券調に付元木平へ出張 廿三日同断

同 廿九日
地券編入為立合罷越、豊川境より一本杉野月尻足沢迄済、十組分関根

迄罷越候

三十日右同断

同三十一日 晴

右同断 此間大に照統諸作蒔物生じ兼川水不足にて田仕付六ヶ敷相成

六月 六日 晴 今日も地券編入下調為立合罷越田口と上久保より元才迄

同 七日 晴 右同断蛇沢より元才迄

同 十日 晴 境沢村戸籍札認入用に付人別調実施

七月 四日 晴曇 七ツ時過より雷鳴夜に入大雷、稲光夥し、大雨水三尺程出る

同 七日 大雨 今日庚申手前番也 洪水となり水六尺程出る

輕業興行

同 九日 曇天 少々冷る、今日も地券調、神明社内に輕業有之、不入にて明日へ附札に成

同 十日 曇天 熊の林八坂神社祭礼、今明日二夜二日

同 十三日 朝大雨 田草取也、七ツ時より大雷雨篠を築くが如し作損じ、麻別て損ず

洪水

同 十六日 雨天 洪水、十七日洪水七尺程出る

同 廿八日 晴 今日天氣に相成、市相場尅實文に付、白米貳升四五合致候処今日貳升八

合位に相成、新小麦四升位の由

地券と地所調査

同 三十一日 晴天

青森より大属始四人来り地券に付地所吟味の為罷越に付、高不相当の反別有之候ては地所取上重き不調法になる故地主共呼出し下調役三人相談宜敷取計可仕候様との達し

石井家持馬改

一、今日馬改に付久左衛門持馬

(一)下 青毛牝 年十九 丈四尺五寸

(二)下 青毛牝 年十五 丈四尺四寸

(三) 青牝 年二 丈四尺二寸

右役錢貳百拾文賄錢八拾文

外青牡 年九 丈四尺四寸

右山屋倉別家の節與遣候馬

八月 六日 大暑

地券調出仕、今日迄にて土用仕廻也、稻穂そろそろ出る、田作宜敷見
得候、岡作照負にて不宜

同 十二日 雨天

昼頃より晴る、去る九日晚より今朝迄昼夜大雨大にしめり致し、先岡
作も少しは直り可申、只々十日も以前なれば猶宜敷所相後れ格別変り申
す間敷候、早粟出穂、中手粟此節出穂盛也、稗も同断早稲いわがも此節
出穂盛也、何卒早く豊作の色見申度候

同 十四日 快晴

伊勢大神宮御祓五本来る、手前一本置、組下太惣治丑松・千弓・清五
郎へ相渡、御初尾三百文宛

物価相場

同 十八日 晴

残暑打続、諸作宜し稲も水口計出穂に成粟稗同断、右に付市相場ゆる

む

壹貫文に付、白米貳升七八合、精粟三升三四合、小麦四升貳三合

同 廿七日 雨天

洪水六尺程の出水也、馬淵川大洪水、

同 廿九日 雨天

以外の雨也水弥増難落し

今日は旧暦七月七日七夕に当る 久左衛門関村へ罷越鉄山一見、山口

へ泊る

九月 三日 晴

今日は旧暦七月十三日に当り六日町市立候事

同 四日 晴

今日は旧暦七月十三日に当る手前限仏事ほかへに旧例通参候事 諸作

の内稲作実法り豊年に成、岡作も可也宜し

同 六日 晴

今日は旧暦七月十五日に当候付三光庵御先祖様御霊前に参詣致候

同 七日 曇

熊野祭礼有之、旧暦七月十六日に当る

同 八日 曇

神明にて今日より角力有之

同 十日 曇

一、今日は旧暦七月十九日に当り雀小館正一位稻荷祭礼被行候事

石井家田地検見実施

一、戸長中村四郎組頭金沢与兵衛・浅石安次郎外茂右衛門共当毛為検見

罷越、行人沢の手前田に高三斗四畝下も、張子岩高式斗一反一畝貳拾步

下毛、獅子鼻高七斗一反中毛、同所高八斗九畝十五步下毛、尻足沢高四

斗七畝五分下毛、正智院川原高三斗五畝下毛、熊の林高八斗一反四畝十

神明宮神事

同 十七日 曇風

祭礼神輿渡御相成候旨

右境沢村、久保村、豊川村、北向村、樽館村、玉ノ木村

同 廿日 雨天

地券御用今日迄にて御用済

同 廿四日 晴

昨夜大風にて諸作大に損、大木枝吹折れ蕎麦稻損ず

まかる
実こぼれの方言

十月 二日 大風

蕎麦まかる、白蕎麦にて至て不作也

八幡祭礼見物

同 五日 晴

久左衛門貞吉召連れ八幡村祭礼罷越

八戸湊へ

同 六日 晴

八戸一見湊迄罷越

同 七日 晴

今日八幡村より罷帰、此元八幡祭礼也

同 八日 晴

此元八幡にて今明日角力有之

神明宮祭礼賑う

同 十五日 晴

大霜、今日神明祭礼大に賑し

検見実施

同 十六日 晴

一、今日も右同断芝居有之

一、川守田組頭唐健治より今日青森県より当毛検見の役方来見分致候に
付、久左衛門所持田地札相立可申旨申来

同 十七日 曇

暖氣に成、梅内村今日日本検見相済、上毛一坪糶一升九合、下毛九合有之

歩下毛、外梅内高元一戸領高尅斗式升四畝下毛得改候事

回達、郷社神明宮神事祭典以来十月十五日旧暦八月廿四日に当る振替

由

同 十八日 雨天 今日川守田村本検見相済む

久左衛門夢見判断 同 廿五日 晴 昨夜久左衛門不思議の夢見たり、我家へ鶴男女二羽飛乗る 久左衛門

男鶴を捕ふると鶴もの言ひ、汝手柄也、鶴は千年の齡故我を殺して食べしとぞ、いや／＼食すまじ、二羽とも助ける故異国へ渡り子を数多もうけ再び我家へ来るべし、その時こそ一羽申請食すべしとて夢覚めたり。是吉夢なるべし 旧主君の紋は二つ舞鶴なれば、二度主君にめぐり会ふか左なくば主従家運長久子孫繁栄の驗か珍敷吉夢に付記鑑に留置候也 昨廿七日より神明に角力有之

同 廿八日 晴 十一月四日 晴風 今日旧曆九月十五日也 庚申清五郎番也

同 八日 雨天 相場 壺貫文に付、白米貳升四合五合位、精粟三升五合、蕎麦八升位、大豆五升位、四升八合も有、清酒壺升六百元、光錢壺文拾文通用、兩替壺兩拾貫文外諸色高直

大黒柱基石賦る 同 十七日 晴 大に氷る、切萩より大黒石一つ人足拾四人にて今日賦、右入方拾五貫

文余

栗材運搬 同 廿一日 晴雨 山口より栗材木都合五拾貳本到着但四間物三間物より四本分過有之

五十六本分にて一本一步一朱積百七拾五貫勘定致遣す 廿四日右土場よ

り村の者頼賦候事

十二月八日 晴風 冷る、今日相場、壹貫文に付、白米貳升三四合、精粟三升貳合位、大

豆四升一合

同 十八日 晴 今日一貫文に付、米貳升三四合、粟貳升八合位

三井組錢札引替
斬髪強行

同 廿一日 回達。三井組の錢札来る廿五日限引替候様、是迄さん切に不相成居候

者此度一統髪切可申、已来元結にて結候儀不相成、若於相背は罰金御取

上尻打可申旨

村中へ今晚申渡一統髪切候様

同 廿五日 雨 ゆるむ道損ず、今日庭仕廻候事、栗木沢より松角四十四本着

同 廿八日 晴 市相場先日同断、十二月廿九日より三十一日迄、新年一月一日より三

日迄右の通休暇に候条此旨毎戸無残可被触

同 卅一日 晴 大に寒じる雪一切無之草履道也、今日心計りの年取也、外にては支度

出来兼旧暦の月日に年取可致心得にて、今日の年取行者無之大に不相当

也

明治七年

一月 一日 晴

大に寒じる川ざへ流る

同 三日 雪

庚申太惣当番也

物価相場

同 八日 小雪

相庭一貫文に付、白米貳升三合、上玄米貳升六合位より下三升余、精

土蔵普請準備

粟貳升八合位

昨日貳石入貳本に白米八斗造酒、今日八斗添懸候事、当春土蔵普請入

用の為

同 十日 雪

昨夜一尺余降る、今日一石貳斗入に精大麦四斗五升、一石入に同四斗、

六斗入に同貳斗五升造酒

正租全納を宜しとす

同 十一日 晴

寒氣甚し、組頭北村庄蔵より昨酉年正租金納か米納か両条中勝手宜敷

方可申出との事、伍長共相談の上金納可然旨申出、組下小間居の者呼出

為心得候事

物価相場

同 十八日 曇

相場尙實文に付、白米貳升貳合、精粟貳升六合、金錢至て不融通の上

光錢不足取引大不都合

山神祝

同 廿九日 晴

今日は旧曆十二月十二日に当り山神相祝候事

士族賜録に付布告

二月 三日 曇

布告

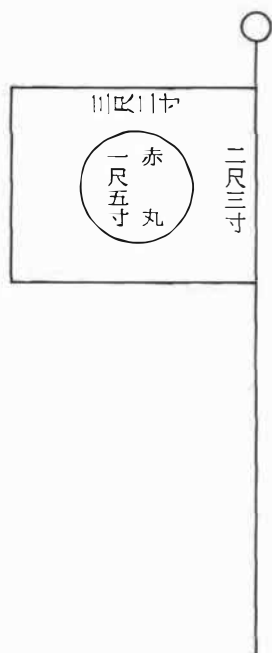
一、百石未満の士族並卒賜録奉還仕度者勝手次第

一、奉還願上の者には当年より六ヶ年賜録差留昨酉年値段にして三ヶ年、
年中分被下、跡三ヶ年分は公債にて相渡す七ヶ年目には正金引替渡、尤
公債証書は八歩の利足毎年十一月御下渡

日の丸国旗寸法

同 十日 晴天

紀元節天長節其外祝日の通昇^{ノボリ}毎戸相立候様申来



同 十一日 雨降

今日紀元節に付昇立候事

同 十二日 晴天

今日旧曆十二月廿六日に当り煤取致候

地震頻々

同 十四日 曇

今日昼九ツ時大地震夜に入又地震雪降旧曆十二月廿八日也、生着米等

売買有之、一貫文に付白米貳升位也

旧曆大晦日

同 十六日 晴

今日は旧曆大晦日に相当り心計祝致し越年也家内一同無事昼十二時頃

大地震

明治七甲戌年（二八七四）

卷 三二

四四丁

久左衛門 五〇才 八郎 三〇才

旧曆正月元日

明治七年戌二月十七日旧曆正月元日也

明治七年戌二月十七日は此日に当る朝旦曇暖氣也

家内十人並馬三足無事越年

斧立祝

二月十八日 晴天

今日吉辰に付春祈禱並土蔵普請に付手斧立祝式取行 大工棟梁菊之

来、喜代市外四人山崎皆司祈禱

同 廿二日 曇天

川守田村組頭佐藤善七より御用有之との旨人を以申来候に付久左衛門

罷出候所御役町へ御越被下度旨罷出候所昨酉年御年貢割付に付岡反別へ
上中下位付相記可申旨申事に付川守田の弥惣六日町長義相談の上相記候

三月 四日 晴天

今日旧曆正月十六日に当大斉日也、殊に庚申清左衛門当番なり

同 七日 曇天

今日吉辰に付蛇沢久保豊川北向橋館町通より八拾人余助人足来り土蔵

柱立致塗板迄打付候

田畑地価取調

同 十七日 晴天

川守田村田畑反別へ地價御用として正副戸長並組頭六日町裏釜沢与兵

衛へ出張に付久左衛門出仕候様申来、立合の上、上田一反歩に付貳拾六

円より下田三円迄、上畑八両より下畑一両迄代付取調候

同 十八日 快晴

今日も代価取調、昼頃迄に相済

四月十七日 晴

川守田村反別へ地價割合御用として正副戸長並組頭六日町裏釜沢与兵

衛へ出張に付久左衛門出仕候様申来、立合田一反歩に付貳拾六円より下

田三円迄上畑八両より下畑一両迄代付取調候

石井東江死去

同 廿八日 晴

石井東江病死に付娘よね遣候儀延引に相成

同 廿九日 雨

東江死去葬式に付手伝人足耆人香代持参久左衛門野送り罷越

五月 二日 晴天

昼風と成大暑

八十八夜

今日八十八夜、苗代粃八斗熊ノ林へ蒔候

同 七日 晴天

昨日名礼書直し左の通来る

第八大区五小区三戸豊川村

十番

北村庄蔵組伍長

農

石井久左衛門

家族七人内男三人
女四人

六月 四日 晴天

昨年来地券を始として貢租莫大に上納下割も不少諸上納物も弥増新役
始り此節苧敷盛に苧時節の処五戸辺にて苧敷苧同様無之薪等山へ切置候
分も御吟味の由に付切株等隠し桑賣等被咎罪金被取或は店內馬糞等片付
不申罪金杯色々の悪行有之未苧敷も苧不申日々伺問合等にて隙を費し不
得止明日迄馬屋肥の賦り、今日熊ノ林田かかせ候 旧領の節と違ひ万事
迷或の事計なり、言語に述べ難し

同 八日 晴天

大暑、子供等水遊居、田植始る

大水川欠

同 十九日 雨天

洪水八九尺程の出水、大清水畑二町程川欠、向三畝余小麦畑並獅子鼻
貳百苧・熊ノ林五拾苧程流失、其外処々川欠出来、近年になき出水也

七月 一日 大風

一昨廿九日大雨降り洪水、昨三十日大風にて大木を吹倒し今日また大

風

同 廿八日 晴天

今日相場左に

一、白米 老貫文に付 壱升五・六合

一、積粟 同 貳升五・六合

一、小麦新同 三升五合位

八月 二日 晴天

日々九十五六度の暑氣也、稻作宜じ、当村白山発社地先達て見分致候

に付有木書上可申旨見分の戸長松尾常吉組頭庄義並釜沢与兵衛申候旨又
助申出に付白山癪社地は当村墓地に昨年地券御改の節頂戴仕候筈、右之
趣前人数へ申出相除候に宣候ハ、除候様渡度旨申出させ候所地町は墓地
に戴候ハ、宣候間當時有木書上可申旨候趣に付今日立合相改候処左の通

一、桜 式本 目通六尺五寸廻程藤からまき悪木

一、杉 壹本 元口四尺廻程真止り藤からまき悪木

一、同 壹本 元口三尺廻程右同断

一、同 五本 元口一尺五寸廻已下藤からまき悪木

一、小杉 五本

一、栗 八本 元口二尺五寸廻位より一尺廻位迄悪木

一、雑木 拾束

右の通御座候尤癪社地ハ境沢村中の墓地に頂戴仕候此段奉書上候

熊原川出水田畑欠漬
九月十四日 曇天

昨夜水一丈程の出水と見得今朝に至一尺余も落水有之候得て熊原川水
満々として海の如し、当時仮橋落流其他田畑大損じ尻足沢田山押し田十

枚計流れ候

同 十八日 雨曇
今日の相場左の記

一、白米 一貫文口付 一升六七合

一、粟 同 二升八合

一、小麦 同 四升位

歩兵五百人通行

同 十九日 雨曇

一、来る廿日より廿四日惣馬改有之に付引出候様組頭より申来

二、当毛水損水押山崩等有之候ハハ吟味の上十九日迄吟味申出候様組頭
へ沙汰の旨申来

十月 六日 雨曇

青森より歩兵五百人程鎮台府へ行く

同 十一日 晴天

今日七等出仕為検見田作見分川守田村上毛一坪苧取粃式升三合有之処

九合に負、下毛七合余程に負、中毛は見分に不及旨にて四ツ時過此元通
行豊川へ引移候

土蔵竣工

同 十四日 大風

雨に成大ニゆるむ、先月廿二日より土蔵へ五間庇新規並内通根太敷板

二階迄階子迄今日迄ニ惣出来上首尾都合五十八ニテ出来

同 十七日 晴天

今日より神明に角力有之

十一月三日 晴天

今日は天長節に付日ノ丸の旗家毎建、神明祭礼賑し、旧九月廿五日に

当る

同 廿日 晴天

当村本橋普請に取付居候

一反歩地積区々

同 廿九日 晴天

戸長所へ罷出候所大勢罷出黄金橋下より一番附田形相改候事、六尺一間にして畦共十文字に縄張候事、一反は従前の貳百坪少し余に当候も有之又くろ余計の田は貳百坪外れ候も可有之甚無利なる御改なり

明治八年

一月 一日 曇天

寒氣甚し

同 十四日 曇天

夜九ツ時頃地震

同 十八日 雪

大に緩む、昨夜地震

地震頻々

同 卅一日 風

今朝寅の中刻地震

二月 二日 晴天

今日は旧十二月廿六日当る、煤取致候

同 五日 小雪

旧曆十二月廿五日に当り年取り也

家内無事越年

明治八乙亥年（一八七五）

卷 三三

四九丁

久左衛門 五一才 八郎 三一才

明治八乙亥年二月六日 旧曆正月元旦に当る

二月 六日

北風大吹雪、往来留

初頭予見世事百談

青森県下八大区五小区 三戸郡境沢村十番地居住 農 石井久左衛門

家内十人馬三疋無事越年 今日は旧曆元日朝旦に当候処北風大雪、世事

百談にも有之通朝旦晴れは万事不成と言ひ、如此き吹雪なれば当年は大

豊作と被考候

春祈禱

同 八日 風冷

今日春祈禱の為山崎皆治様招く、御初尾白米一升 老實文並竹中二十

丁遣

同 十四日 晴天

夜大地震

同 十八日 晴天

今日市相場左に

一、白米 老實文に付 貳升二三合位

一、精粟 同 三升三合位

一、大豆 同 五升一・二合

一、小麦 同 四升位又は四升一・二合

大雪の為馬足留に付魚類高直也

学校諸入費割合 同 廿一日 曇天

昨日伍長に御用の趣申来候処留主に付清左衛門へ頼合遣候処学校諸入費軒別に一ヶ月式百式拾文宛月々已来上納可致旨被仰付候由、今日清太郎を以談合有之、明日白山御神酒上に付其節一統へ為相心得候ハ、可然旨談合遣候

同 廿六日 晴

寒しる

一、元斗南藩猪野廣之進罷越未納御用金有之儀に付談合有之

同 廿八日 晴

大に寒しる、枯木に花咲く、今晚廿三夜なれども不見得

貢租金遅滞督促

三月 八日 晴

遠藤大属本陣へ出張、重立並伍長御呼出にて久左衛門組頭佐藤善七罷出候処太助・八郎共同道罷出候所昨年より貢租代金半分の処三月二步五厘、五月二步五厘上納申付置候得共若及遅滞候ては急度上納可致聊たりとも未納におゐては身帯限可申付旨嚴達候

同 廿三日 風

明日は送り彼岸也

同 廿四日 風

昨日四小区正副戸長より御用候条良刻令差出旨組頭宛の差紙を以参候に付直々罷越候所先達て飼犬一条の儀官員對馬貞勝と申者四小区にて尋候付今日左の通申上候

陸奥国三戸郡第八大区五小区

豊川村 農石井久左衛門

飼犬の儀に付對馬完直と申者に被欺蠟燭呉遣候始末詳細可申上旨御尋に御座候

此段奉申上候、自分儀明治八年三月三日午前十時頃三戸町へ私用にて参居候処留守跡へ同日正午十二時頃伝信線見廻青森県捕工藤孫弥と名乗第七十一号御布達如何相心得飼犬致置候段不相成、依て本庁へ縄付の上可引付或は金壱円五十錢可差出と申事に候得共留守に付直様迎人遣可申と家内共にて挨拶致判然行先相分らざるに付とく再三人を遣ひ漸午後四時頃行逢帰宅の所前件御布達の儀申事に付右様の御達は無之尤犬は先年より用心の為飼置候と答候得は別紙一見可致旨にて差出候所同大区一小区上市川村にて野良犬飼置の儀に付贖罪金一円五十錢差出候旨有之御布達とは不相見とく返却致候所実は田子村へ御用にて通り懸犬の旨有之

立寄候儀坏と前条相違の申分故全御役人にては無之と相見得候所より有
合の濁酒並聊馳走致し然に唐附木一箱子供に呉候に付五匁懸蠟燭十挺呉
遣、午後六時頃出立に候得共不束と存兩人相頼否哉跡追馳させ候得共暮
に及行衛相分ず申依て翌四日同区戸長松尾紋右衛門並同村組頭北村庄蔵
方へ相届申候

右之通相違不申上候

地租改正に付持地へ
建礼

四月 六日 曇天

此度地租改正に付銘々接地田畑へ三寸角長四尺にして一筆限棒杭建候
様御沙汰有之候、外御布達書左に

税免除項目

本年一月一日より御廃相成候八大区税目

水車 川漁 萱屋根造り

鰯締粕焼印 同他出 漆木水漆

馬医 襦漆 巻網

石工・鍛冶・木挽・杣・桶屋・大工・左官・畳師免許（以下略）

検地続行

同 廿三日 晴天

組にて改居候

同 廿五日 風曇

追々晴る 昨夜大雨・雪洪水

同 廿八日 晴天

大霜、本日は庚申なり

五月 四日

一昨日八十八夜の処氣候相遅れ此節漸々桜・梅の花咲く

同 十八日 大風

記

豊川村組頭

北村 庄次郎

右組頭御廃致

同

斗内村豊川村公用懸申付

八年五月十八日 正 副 戸 長

六月 五日 曇雨

今日地租改正に付田畑縄直し獅子鼻より当村の下一本杉川原改済む

七月 五日 雨天

一昨三日夜羽後国石井某二十才ほけ小屋へ忍居取押北村庄次郎へ届候

処羅卒二人来吟味の上怪敷無之候ハ、送り離候様申事に付清左衛門留置

昨朝食事為致豊川村境迄送り離候事

出水洪水

同 十日 曇雨

昨日昼頃より追々出水、夜に入大洪水、今朝に至り水の高サ八尺程も

出候半、一尺程も落水に相成候得共獅子ヶ鼻下モ土手痛み水越し二百苅

余流失其、外川欠水損夥し不客易洪水也

降雨やまず水損莫大

同 卅日 大雨

去十八日より降雨続きにてその間洪水にて水損川欠有之毎日の雨にて

實に不順なる天候也

八月 五日 曇天

冷氣甚し

八大区四小区区務所江今日出頭、地租改正改反別へ等級調十二等の位

付川守田伍長立合取調候

同 八日 晴天

今日の相場荒増左の通り

一、白米 壹貫文に付 壹升六合位

一、精粟 同 貳升六合位

一、小麦 同 三升八合位

一、清酒 壹升 壹升文

大蔵官吏検見

同 廿三日 晴天

検見役方大蔵省より五人来り川守田村見分相済、久左衛門、清左衛門
外村の者共九人人足出候

九月 一日 晴天

今日は二十十日、冷氣甚し、五戸祭礼見物、五戸へ止宿

同 五日

朝雨天、昨夜より雨降り

六小区田畑地調査依頼

本日五小区へ罷出戸長杉尾紋右衛門へ面会致候処地租改正調に付一時
雇被仰付候間六小区へ相廻申事に付直に今日より出頭の事

九月 六日 曇雨

神明祭礼有之賑々し

同 八日 小雨

一昨日より改正調の為六小区へ出頭調査

曲馬大入

同 十九日 晴天

昨日より神明に於て曲馬有之大入なり

十月十四日 霜降

今晚より芝居神明にて有之

同 廿八日 雨晴

今日相場追々引上り

一、白米 壺 δ 文に付 壺升三合 $\sim$ 三合五勺

下 四合迄

一、小麦 同 二升三合位迄

一、大豆 同 三升五合位迄

一、精粟 同 二升位の由

一、清酒 壺升 壺 δ 貳百文

一、古酒 壺升 壺 δ 三百三十文位

地震 十一月三日 晴

夜四ツ時過大地震

同 四日 晴 昨夜同時刻頃地震又々有之

同 五日 大霜 霜雪の如し、昼過より雨降水出る

出火、馬焼死 今夜鶏鳴前より北東に當つて火事見得寅渡六軒焼失、馬壺疋焼死の由

出生届

十二月八日 雨天

左の如き通達有之候に付書上出生届に付照会の所、懷妊五ヶ月以上巡查へ書上候様、猶四ヶ月以上何人にてても一紙にして書上且出生又は流産等も其度毎に書上、出生届後三十日過候て病死候ハ、御知らせに不及との事、出生の節は村用懸へも相届候事

士族へ地所拂下差止め

同 十一日 晴天

左の通御達に候事望の者は本月十三日限申出候様可被申達候也

士族の者へ地所払下の儀に付本月七日付を以布達置候所詮儀之次第有之当分差止め候条出願の者は来る十五日限可申出旨区内無洩可相達此旨相達候事

明治八年十二月四日

参事塩谷良翰代理

青森県権参事

那 須 均

明治九年

同 十三日 晴天

今日より六小区へ地租改正調の為出席、夜四ツ時罷帰

一月 一日 晴雪

六小区へ出席

同 八日

大吹風雪

同 九日

冷 今日も六小区へ出席、戸籍へ差向取調

同 廿一日 晴天

九日より今日まで日々六小区へ出席

同 廿五日

今日は旧曆十二月廿九日に当る、年取也、昨廿四日より官員出張、二

日町松尾円次郎宅にて収穫取調へ取付候、戸長代理被心得諸事取計可申
旨連長立合久左衛門・惣蔵等へ達之事

久左衛門 五二才 八郎 三二才

一月廿六日 曇天 旧曆正月元日に当る

神武天皇即位記より二千五百三十六年

西洋 壹千八百七十六年

家内十人・馬三疋無事越年

六小区扱所へ地租改正に付收穫地価地租金取調に付日々出席の事

同 廿七日 今日より八郎共兩人宛六小区へ出席

鉄砲所持許可申請

二月 二日 曇天

今日所持の鉄砲差出候様村用懸北村庄次郎より申来、和筒一挺玉目四
匁・長サ三尺、同一挺玉目二匁長サ三尺八寸、ノ二挺五小区副戸長一戸

金弥へ札付八郎を以差出候事

同 七日 雨天 道大に損し

区費捻出論議

五小区へ久左衛門並各村惣代呼出候て議論有之、民費の一御取立都合
八大区中にて壹万貳千円程也、昨年の御遣拂四千円程差引八千円余過金
に相成候、如何心付有之候哉と区長尋候に付一統評儀の上民費の一を五

歩二月御取立、右にても二千円余過金有之候 此内半分凶作の備穀相調

残り半金は八大区中学校為補金手伝候上可然と評儀一決の事、其外十ヶ

条程の議論有之候得共外在来の俣外各小区振合に被成下度と申事に付引

取候

廿三夜

同 十七日 冷る

今夜は廿三夜也 曇にて不見得

同 十九日 曇天

鉄砲御改印願差出申候 右は一昨年四月上旬御官員御出張御改印被下

候旨御達の処其際岩手県官下九戸郡へ出稼不在中に付御届漏に相成恐縮

罷有候内本年「布第一号」特別の詮議を以一時改印可遣旨御達の趣奉致

承候、依之御改印被下度銃砲相副此段奉願候

二月十五日

青森県参事

塩谷良輔 殿宛

同 廿六日 曇天

地租改正に付收穫米豆地価金地租取調為御用相詰候所八郎儀一月廿七

日より昨日迄出席、毎夜詰め取調候に付今日迄日当被下候積都合三十一

日出席、久左衛門は未取調に至不申に付日々出席、今夜も鶏鳴迄取調御

用に付相詰其上大風雪にて二日町円次郎へ止宿致候

三月 九日 風

眼病に付救合の儀六小区取調出張詰大矢惣蔵迄紙面を以申越

藤一郎玉岑寺入学

同 十七日 小雪

彼岸、長男藤一郎玉岑寺へ昨十六日入学候事

同 廿七日 雨天

昨日青森縣より官員兩人来、四・五・六小区毎にて所持の者より差出候鉄砲改有之、所持の鉄砲式挺五小区扱所より相下る

鉄砲許可證

鉄砲所持之證

第千百六拾一号 当県第八大区五小区

一、和銃弐挺 陸奥国三戸郡豊川村

但玉目四匁目 石井 久左衛門

右賣拂讓渡候節は願出可伺此證可相納事

明治九年二月廿八日

青森県□

馬野入

四月 七日 晴

大霜

他一挺は第千百六十二号の證也

一、青毛 丈四尺五寸

一、鹿毛 丈四尺三寸 一四 三年の年也

二 右同 出ル町土屋より来候馬

右馬二疋野入の儀五小区書記平八へ頼合

田子通並三戸五戸百
姓不穩

同 十二日 晴

今日六小区へ例の通出勤候處六小区田子村辺御百姓共數百人打寄騒立

四千人結集

同 十三日 晴

居候に付巡查立向候所双方怪我人出来、不容易形勢に付貝森村へ為締四
小区副戸長一戸米治並久左衛門小林丈八一同罷越未だ戻さる内に弥々多
勢に相成午後二時前頃此元千八百人程罷通候趣当村も不残被誘参候趣久
左衛門帰宅の上承驚歎の至に候

村方留主の内に歎願人数に被誘罷越候趣戸長所へ罷置為心得申出置候
事

一昨夜より今朝迄引も不切多人数罷成、薬師長根屯所に凡四千人程居
候趣

同 十四日 風

今朝は市民より猶又大勢罷越候趣なり

五千人余五戸屯集

諸品物価

同 廿八日 晴

歎願の人数十三日薬師長根出立、五戸地藏平白山平両所に屯致居候趣
五戸通よりも沢山出五六千人の人数の由、青森県より官員出張夫々取鎮
め願向取上げ、追々帰村致候事、当村の人数も不残今晚罷帰候
今日相場表荒増左に

一、白米 壹貫文に付 壹升七八合より貳升位迄

一、精粟 同 貳升七合位

一、小麦 同 貳升七合位

一、清酒 壺升 金貳百文 小売

一、鯨 壺本 六拾文或は七拾匁位

金銭不融通に付大に下直なり

八十八夜 五月 一日 晴

今日八十八夜、種籾蒔候

旧藩主来三の予告 同 四日 晴

旧主人從五位様明五日三戸へ御着に相成候条、明朝午前八時迄当地へ御出願有之度此段承候より御報知に及候也

五月四日 諏訪内 源 司

一 戸 綱 政

尚々四小区扱所へ御出頭有之度此段申進候

同 五日 晴

旧主君南部從五位様甲斐守彦三郎と申上、今年後三時頃三戸御着に付旧土族

一同養ヶ坂の上へ壮士の族御出迎立場にて御小休、直に一同御供にて三

戸へ御着、同心丁外れにて老年の者及若輩の者御出迎御供にて御旅館田

子丹宮へ御安着野辺地・三戸・五戸より相詰候人数献上物御目見有之、

三戸人数は明日八時頃悟真寺へ相詰居御沙汰次第御本陣へ相詰可申旨御

差図に付一同帰宅候

同 六日 晴

旧主御本陣田子丹宮へ旧士一同罷上り御機嫌伺御目通り有之久左衛

門・八郎・藤一郎一処に御目見得相済、御懇の御意有之御次に於て御酒

御吸物被下置度思召候処御人数の儀に付一同へ金貳拾円目録にて被下置

候事

同 七日 晴天

一同久慈町外にて御見送り申上、薬師長根御小休場手配して先懸致し

同処にて御出迎、高山御小休場へ駆抜候処迄此元よりの持送り物坏運び

同処御小休場におゐて七戸迄並御帰詰五戸迄御供仕度旨松田儀勇を以披

露直に御先立浅水昼にて、五戸へ午后二時頃御着、御宿三伝本宅、同所

五戸止宿

文太郎へ止宿

五戸より七戸へ 同 八日 晴天

八時前五戸御出立に付久左衛門先立、三本木御本陣御昼にて七戸へ御

宿、直に御霊屋並御霊前御参詣御帰り懸御本丸へ御裏御門より御入、表

御門より御帰り浜幾へ御帰

七戸より三本木へ 同 九日 晴天

九時頃七戸御出立、三本木御昼にて五戸へ御安着、五戸御本陣へ入、

是迄御供願上御先立仕候処是より八戸へ御出立の趣に付是より御暇頂戴

仕度旨松田を以て申上候所御目通被仰付、夕方に至り附添御役方一同と

御相伴に預り候

営業願

六月 八日 雨天

洪水 左の如く営業願提出

縣稅御賦課之儀に付營業願

一、金七拾五錢 石井 久左衛門

一、煉油稅

蠟燭

右者本年達第九拾三号県稅御賦課之儀御達に付前載之通兼營業渡世仕度依之御規則に基キ御鑑札料書面之通上納仕候間御聞届被下置御鑑札御下渡被成下度此段奉願候以上

明治九年六月八日

青森県參事 塩谷 良輔 殿

右願に付許可有之候

当面願の趣聞届候条兼業の内練油一種金七拾五未宛年に納稅可致事

八月十二日

國務權大丞 北代 正臣

同 十八日 晴

次第に相場下直に相成荒増左に

一、白米 拾錢に付 壹升六七合

一、精粟 同 貳升貳合位

一、小麦 同 貳升二三合

一、蕎麦 五升五合位

一、清酒 壺升 拾貳錢五厘 貳朱也

同 廿七日 曇 昨廿六日より晴天、三日角力有之大に不入也

明治天皇行啓 七月 十日 快晴 暑氣甚し

今日至上為御巡幸此元へ昼過御着御泊候事尤小学校手習子供御出迎其外諸役付黨等巡查等夥敷御警衛在々より男女奉拝龍顔の為早朝より罷出市中居処無之程群集致し人力車引も不切第十時前より着御長持百棹も参候半、騎兵隊十騎程拔身の鎧を携来、御召替馬車疋引御先に来、猶又騎兵隊十騎程同行白熊の毛付甲様のもの冠り拔身の鎧を持何れも馬上二疋引の馬車にて主上御通行候 市中大に賑ひ候なり

三戸御仮宿 御支度終り元御仮屋武稽所へ行幸 馬上覽終て猶疋引馬車にて御本陣へ御還行有之候

同 十一日 晴 今朝出立、五戸へ御引移候

八月 三日 晴天 昨年改正田畑御改の外口号と称候分秣場萱場藪林等此節丈量始り川守田村御用係兼て申来居候処今日大沢より雀舘此辺へ来、久左衛門清右衛

門罷出候事名部久保大清水等改済

桑木苗配附

同 四日 快晴

蛇沢、蛇沢新田相改候

同 八日 快晴

今日も口号改として浜民へ罷越同処相改前ノ沢迄改候

同 廿八日 晴

豊作の色見得候に付今日の相場左に

一、白米 壹匁文に付 貳升一合より三合位迄

一、精粟 同 貳升三合

一、小麦 同 三升七八合

同 廿九日 晴

色々の御布告書二冊貳拾五軒へ一通り宛御下渡に付久保宅にて一時預

置、御用の節は御目に懸可申旨一見の上相戻候

九月 四日 晴

桑苗当村へ三百八拾本御下渡に付老人分三拾八本宛配分植付候所不残

根付不申候

同 十日 晴

粟作へ虫付候由に付今日村中寄集り虫追致候

法泉寺修理

同 十六日 曇

今日法泉寺に寄合有之、本堂葺替疊四十五畳の表替・四十五畳返表、

廊下屋根葺次井戸桁新規普請の事

同 廿三日 小雨

神明祭礼神輿渡有之、雨天にて甚不賑也

馬鑑札

十月 四日 小雨

一、馬鑑札三枚村用係より請取候

馬鑑札	第八大区五小区
下 豊川村十番地	戸長 大矢小右衛門○
表 ○ 青毛牝十五才 石井久左衛門家畜	裏 ○ 青森県御官印
丈四尺五寸	牛馬係 佐藤善五郎○
内 卷	村用係 北村庄次郎○
明治九年八月	

外青毛牝五才丈四尺五寸並鹿毛三才丈四尺四寸二枚同断に付略之

一、達式百拾七号

本年地租金徴収の儀第一期収として九月三十日迄郡村料宅地に租金十分ノ一完納可致旨当縣達第百七十一号を以相達置候処農家におゐては收穫取入後売買の期にあらざれば目途無之、第一期中收入方難渋の旨各区長協議を以納期限申出に付夫々取調候処事情無余儀相聞得候に付特別の内へ別紙割合の通賦謀候条期日通完納可致万一右期日を怠る者は成規の通処分可及候条毎戸無洩絢示心得違無之様可取計此旨更に相達候事

明治九年九月十八日

青森県令 山田秀典

地租金納付期日

九年地租金郡村之分

一、金三万七千六百貳拾三円九錢四厘 第八大区内

金七千五百貳拾四円七錢九厘 二步通

但本年十一月一日より收入して同年十二月

十五日限県廳へ皆納

金壹万八千八百拾円拾九錢七厘 五步通

但本年十二月十六日より收入して十年

一月三十一日限県廳へ皆納

金壹万貳千八百八拾六円拾壹錢八厘 三步通

但明治十年二月一日より收入して同年三月

三十一日限県廳へ皆納

駒撮

一、貳歳極駒日割 八大区 三戸

十月廿三・廿四・廿五日 官員兩名出張之事

二才駒売買に付布達

一、貳歳牝馬を他へ販売する趣相聞不都合の至成丈三四才以上に至ら
されは販売せざる様注意為致可申才已下にて販売せざる時は實際区

戸長午馬係にて専勘査の上販売の儀 以下略

一、該区内毎村の内從來秣入会蒞取来候処今般山林原野改正の際細民

共に至候ては心得違を以入会蒞取方差拒罷成に相聞得以の外に候 警

大区違と雖も決て差拒筋無之候条小前末々篤と申諭可置此旨相達候事

九年九月廿日

青森県令 山 田 秀 典

五戸出張

同 廿日 晴天

口号調に付五戸へ行く

十一月三日

今日は九月十八日に当る故七五郎命日也

角力興行

同 十六日 晴

今日大角力有之、札銭九銭也

熊本騒乱

一、先月廿四日五日六日頃肥後熊本士族暴動県廳を潰し、全打死参事大怪我騒動の由、山口県にても同廿八日士族暴動大變の趣追々新聞等にて

申来候

庚申

十二月十八日 晴

庚申寅松当番なり

明治十年

一月 三日 晴

此処三日晴天、五日は小寒入日也

二月 七日 雪

積雪一尺程、昨年来初て雪降る

二月十二日 晴

今日は旧曆十二月晦日に当る

千秋万歲 家内一同無事越年

青森県立図書館解題書目刊行一覽

第一集	津 輕 史	昭和46年10月21日	発行
第二集	官省指令留・官省願伺届	昭和47年3月10日	発行
第三集	滝 屋 文 書	昭和48年3月10日	発行
第四集	木 村 文 書	昭和48年11月25日	発行
第五集	多 聞 院 文 書	昭和50年2月1日	発行
第六集	五 家 文 書	昭和51年3月31日	発行
第七集	萬 日 記 抄 一	昭和52年3月25日	発行
第八集	萬 日 記 抄 二	昭和52年7月28日	発行
第九集	萬 日 記 抄 三	昭和53年3月25日	発行
第一〇集	津輕史解説目次抄一	昭和54年6月25日	発行
第一一集	津輕史解説目次抄二	昭和56年3月5日	発行
第一二集	津輕史解説目次抄三	昭和57年3月15日	発行
第一三集	津輕史解説目次抄四	昭和58年3月15日	発行
第一四集	津輕史解説目次抄五	昭和59年3月25日	発行
第一五集	萬 日 記 抄 四	昭和60年6月24日	発行

A 025		
A		解題書目 第15集 青森県立図書館編 青森 昭60 147P 21cm 内容：萬日記抄四

昭和60年 6 月24日印刷

昭和60年 6 月24日発行

編集 青 森 県 立 図 書 館
 発行 青森市新町二丁目4番30号
 電話 (23) 2 3 0 1 番
 印刷 第一印刷株式会社
 青森市石江字江渡3-1
 電話 (82) 2 3 3 3 番



